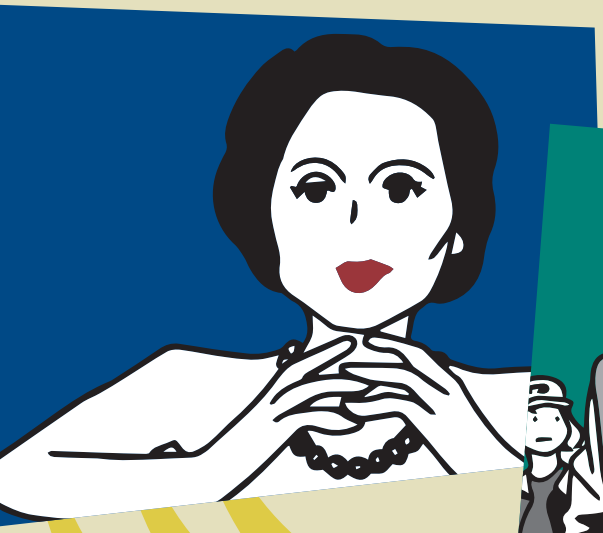
京都府立大学 リカレント学習講座

映画で学ぶ「20世紀ドイツの多様性」

コーディネーター　京都新聞「現代のことば」で
おなじみの青地伯水（京都府立大学教授）



一般の方、どなたでも受講できます。

日　時	2023年1月7日、21日、2月4日、18日の土曜日４回　13:20-15:50
場　所	キャンパスプラザ京都　第4講義室　2月4日のみ第1会議室
定　員	55名先着順
受講料	4000円（4回通しのみ）

※第1回目に現金でお願いします。
３０分前から受け付けます。
早めにお越しください。

募集期間：2023年1月4日まで（定員に達し次第締め切ります。）

申し込み方法：右のQRコードか URL（https://forms.office.com/r/tTYgSNVcrM）から
または、h_aoji@kpu.ac.jp 宛に、件名を「リカレント学習講座申し込み」
として、氏名、電話番号を記載したメールをお送りください。

京都府立大学 リカレント学習講座

映画で学ぶ20世紀ドイツの多様性

2023年
各回、土曜日
13: 20～15: 50

各講座の概要

第１回１月７日

1930年代から戦後へ リーフェンシュタールとディートリヒ

青地伯水（京都府立大学文学部教授）

20世紀初頭にベルリンで生まれた二人の女性、レニ・リーフェンシュタールとマレーネ・ディートリヒは、ともに映画界で活躍しました。レニはナチスのもとで栄華を極め、戦後は細々と芸術活動をしました。マレーネはハリウッドに渡り、ナチスと戦う姿勢を示し、戦後も大スターであり続けました。二人の女性の人生から、２０世紀ドイツを考えてみましょう。

第２回１月21日

ドイツ表現主義映画とナチズム

杉山東洋（京都大学文学研究科大学院生）
コメンテーター　青地伯水

悪魔、殺人鬼、アンドロイド……ドイツ表現主義映画には、観る者を惹きつける幻想的なキャラクターが数多く登場します。まがまがしい怪物たちは、ドイツの伝統的な文学を引き継ぎながら、その後の映画史にも影響を与えました。その裏には、二度の大戦やナチズムと当時の映画とを結びつける発想があります。こうした映画と社会のつながりについて、実際の作品を観ながら学び、考えてみませんか？

第３回２月４日

68年の学生運動とテロリズム

ポルドニャック・エドワルド（京都大学文学研究科大学院生）
コメンテーター　青地伯水

様々なテロ行為によって1970年代のドイツ連邦共和国を震撼させたドイツ赤軍（RAF）は、「1968年」の世界的な諸学生運動の一つの帰結となりました。敗戦国日本・ドイツ・イタリアにおける新左翼組織として、RAFは日本赤軍などとも共通点を持ちました。そしてこのRAFのテロ活動の中には、反ユダヤ主義を背景としたものもありました。翻って、我が国の新左翼にも同様の問題はあったのでしょうか？御一緒に考えてみます。

第４回２月18日

移民を描くドイツ／移民が描くドイツ

須藤秀平（京都大学人間・環境学研究科准教授）
後半パネルディスカッション　杉山東洋、ポルドニャック・エドワルド、青地伯水

戦後の経済復興期に外国人労働者を大量に募集して以来、ドイツにはたくさんの移民が居住しています。社会保障や教育支援も手厚いドイツの移民・難民受け入れ政策は世界的に評価される一方で、当然ながら様々な問題を抱えてもいます。移民を題材にした映画、そして移民の背景を持つ監督による映画を取り上げ、いかなる問題が描かれているのか、また新たな文化がどのように育まれているのかを考えます。